

回想

Farida Fahmy 著「思い出を辿る旅」

Article par Farida Fahmy©2016

www.faridafahmy.com

Original title: Reminiscing

私の夢が叶って本当に感謝しています。今でも、人々に会うたびに、私の心は愛と尊敬で満たされます。私のことは、レダ舞踊団とともにエジプト人の記憶に残っていることでしょう。

私のキャリアを通じて何度も、「初めてダンサーになりたいと思ったのはいつですか?」と尋ねられました。私はいつも「小さい頃から」と答えてきました。通常、人は年を経るにつれて、思い出を回想する傾向があります。最近、私はこの疑問について考え、幼い頃の記憶を少しずつ思い出し始めました。

この思い出の旅の始まりは、古い写真を長い時間座って眺めていたときでした。家族、レダ舞踊団で過ごした時、そしてレダ舞踊団以降に分けて整理してみました。

この作業は私の心にとってもたくさんの思い出を呼び起こしてくれました。とても鮮明なものもあれば、かなり漠然としたものもありました。

私の幼少期の古い写真を見ていると、私が幼い頃、母がいつも「そわそわするのはやめなさい」「じっと座っていなさい」「動き回るのはやめなさい」と言っていたことを思い出しました。6歳上の姉からは、いつも私が一晩中蹴ってくると文句を言われ、ベッドを共有するのを拒否されていました。本当のことですが、目が覚めるとベッドの足元に頭が付いていることがよくありました。

最近、1歳上の従妹とよく話すようになりました。私たちは一緒に育ちました。彼女はたくさんのことを思い出させてくれます。ここでの時間はとても良いものでした、そして私は彼女が様々なことを詳細に覚えていることに驚いています。そして多くの記憶を思い出すことが出来ました。本当に素晴らしい子供時代を過ごせたことを両親に感謝しています。

私が5歳か6歳のとき、母の足の上に立って腰を掴んで、フォックストロットやワルツを踊ったときのことを思い出しました。同じように、父方の祖母がベッドにあぐらをかいて座り、私が「バラディ」を踊っている間、使用人たちがテーブルや鍋でリズムをとりながら歌っていたのを覚えています。彼らが歌った曲もはっきりと覚えています。母がファラーヒ・ガラベヤを作ってくれたのも覚えています。【農民の女性が着る衣服】。それは黄色で、ヨークに黒いベルベットのリボンが付いていました。マンディール[頭にかぶるス

カーフ]とタルハ[頭に巻くベール]も持っていて、懇親会や夏休みのパーティー等で踊るときにかぶっていました。

貴重な写真が2枚あります。

それと同じ頃、ある晩、私は母と歩いていました。彼女は何らかの理由で動揺していたので、私は母に、「大きくなったら大スターになってキャデラックを買ってあげるから、不幸にならないで」と言いました。私がこのことをはっきりと覚えているのは、母が友人に私が言ったことをよく私の前で繰り返し言っていたからです。

1964年頃、私がレダ舞踊団のファーストダンサーとして成功した後、母は冗談めかして私をからかいました。「あなたは大スターになったのに、キャデラックはどこにあるの？」私は「エジプトにはキャデラックはないし、あったとしても買う余裕はない」と言いました。

自分の将来がどうなるか、心の奥深くで私に信じさせたのは何だったのでしょうか？

それは直感だったのでしょうか、本能でしょうか、それとも潜在意識でしょうか？

その答えはまだ分かりません。

非常に多くの人が、かつて今も世界中で、踊りたいという幼い頃の願いを叶えた人がたくさんいると言うかもしれません。それは、ダンスが世界のほとんどの地域で賞賛され、尊敬され続けてきたからです。ダンサーが自分の選んだキャリアを追求できる機会や場所は、昔も今もたくさんあります。子供の頃の場合はそうではありませんでしたが、エジプト人は概してダンスを相変わらずの活動とみなし、プロのダンサーを見下しているという事実にもまったく気づいていませんでした。

エジプトの貴族や上流階級の人たちは、娘たちにアマチュア向けの「西洋式」ダンススクールに通うことだけを許可していました。年末の発表会には、家族や友人だけが出席していました。エジプトのエリート教育を受けた人たちですら、一般的にダンスをどのように見ていたかについて着目した私の論文から引用します。ムシャラファ氏は1947年に『現代エジプトの文化調査』の中でこう書いています。

学校の活動は西洋的なものが行われています。“流行の先端”や“見せびらかしたい欲”としての工業的産物で、観光業に属しているフランコアラビックキャバレーは、生来の下品さとして、それはノイローゼ的な活動です…最近では富裕層の女子校にもバレエが導入されています。

10代の頃、私はさまざまなダンススクールに通いました。そこでは、クラシックバレエやタップダンスなどの基礎を教してもらいました。実際、楽しくて上手に動きましたが、居心地が悪く、これは自分が踊りたい踊り方ではないといつも感じていました。何か足りないのですが、その時はそれが何なのか分かりませんでした。今、これを書きながら、ある出来事を思い出しました。私は十四、五歳くらいだったと思います。メンバー

になっていたスポーツクラブで行われたアマチュアパフォーマンスの一つで、男性パートナーとスペインダンス的なものを踊ったときのこと。実際、私はとても愚かだと感じたのでクスクス笑ってしまい、笑いが止まらなくなりました。言うまでもなく、私はダンスを台無しにしました。

私たちがレダ兄弟と出会ったのは、数年間入っていたこのクラブでした。そこでマフムードと妹のナディエダは恋に落ちて結婚し、3年後私はアリ・レダと婚約しました。その期間に、私たちは皆、ダンスに対する同じ愛情を共有し、同じ芸術的野望と強い願望を持っていることに気づきました。私がいつも望んでいたように私を踊らせることができるのは、何の疑いもなく、マフムード・レダだけであると直感的に思いました。

私は、レダ舞踊団の初日である 1959 年 8 月 6 日までに過ごした長い時間をよく覚えています。私たち（レダ兄弟もファフミー家も）は、エジプトの芸術と文化、そしてエジプト国民の社会規範と伝統について延々と話し続けました。

商学部の卒業生であるマフムード・レダと、ショービジネスに精通していたアリ・レダ、そして私の父の知恵と経験のおかげで、私たちはショーダンス一座を芸術的およびロジスティック（事業的）な観点から創設するために何が必要かを理解することができました。

最近、もしレダ兄弟に出会わなかったらどうなっていたかと考えるたびに、少し不安になります。もし私の父が強くて勇敢で並外れた心の広い人ではなかったらどうなっていたでしょう？

他にも“もしも”がたくさんありますか？ 私たちが知っているようなレダ舞踊団は存在していなかったでしょうし、私は踊っていなかったでしょう。私の夢が叶って本当に感謝しています。今でも、人々に出会うたびに、私の心は愛と尊敬で満たされます。私のことは、レダ舞踊団とともにエジプト人の記憶に残っていることでしょう。

最後に、エジプト舞踊を学び、演奏したいと思うようになったきっかけは何だったのか、皆様にぜひ教えていただきたいです。覚えておいてください、世界のどこにいても、誰もがができるダンスのジャンルは無限にあることを。

Farida Fahmy

<この記事について>

この記事は、より広範なダンス コミュニティ向けに公開されているリソースです。この記事の一部を参照する場合は、Farida Fahmy と彼女の Web サイト www.faridafahmy.com をクレジット（著作権者・提供者などの名前を記すこと）していただくか、office@faridafahmy.com までご連絡ください。

<翻訳>

Farida Fahmy の許可を得て、Izumi (<http://www.izumiorientaldance.com/profile>)が翻訳
(Translated by Izumi with permission from Farida Fahmy)

Article Farida Fahmy www.faridafahmy.com

Images Mahmoud Reda – personal archives

Design/web Keti Sharif www.ketisharif.com

For more articles, visit Farida's website or join her Facebook Fan page
<https://www.facebook.com/FaridaFahmy>